

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語】

1. 対象 本校の生徒は、「助言や指示には素直に従い、言われたことは実行できる」という表れがある一方で、進んで行動したり、主体的に人前に出て自分を表現したりすることは苦手な生徒が多い。学校教育目標の具現化のために、授業では「生徒の学ぶ意欲を育むこと」をねらい、「学びの実感を得られる授業」を意識して研修を進めている。そこで、研究の柱として、「読解力」の育成を位置づけ、「対話的な学び」を教師が意図的に設定している。生徒が考えたくなるような問いや課題を設定し、仲間同士で話す必然性を作り出すことにより、生徒は主体的に学習活動に取り組み、「対話的な学び」において、考えを伝え合うことで、教科の見方・考え方をより働かせて考えることができるだろう。これにより、「読解力」を生徒に育ませることができると考える。学級全体の前ではなかなか積極的になれない生徒も、班活動での取り組みには前向きに取り組むことができるため、目的を明確にしながら班での話し合い活動を設定することで「学びの実感」を感じさせ、「生徒の学ぶ意欲」を育てていきたい。

2. 単元名 「故郷」（全6時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。
思考力, 判断力, 表現力等	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見をもつこと。
学びに向かう力, 人間性等	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする

4. 本時の目標

作品における登場人物の言動や生き方について感じたことを仲間と交流することで、人の生き方についての自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

5. 授業展開【本時・単元（題材）】

解決したい課題や問い
3人の人物の生き方に注目することで、これからの私たちのより良い生き方を考えよう。

考えるための材料
①生徒の読み取りをもとに作成した、3人の人物の生き方についての手がかりをつかめるスライド ②作品が書かれた当時の社会情勢が説明されているスライド ③タブレット（ジャムボード）
想定される活動
①・②の材料を提供することで、様々な意見が出てくることが考えられる。諦めの心をもってしまっているルントウに対して、社会情勢を考慮すれば仕方がないことで、気の毒だという考えをもつ生徒もいれば、諦めてしまうような生き方ではいけないというルントウに対して批判的な考えをもつ生徒もいることが想定される。そのような様々な角度から人物の生き方について考える中で、言葉の見方・考え方を働かせ、人物描写をさらに読み深めていくことができると想定している。また、③を使用することで、自分なりの意見を表出しやすくなり、その後の話し合い活動が活発になるだろう。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

3人または4人班を設定し、私・ルントウ・ヤンおぼさんの生き方についての自分が考えたことを、班の仲間と伝え合う。また、自分がこの時代に生きていたらどうするかを話し合う。

【想定される子供の対話・思考プロセス】

- A：私はルントウのような生き方は、この時代において仕方がないかなって思った。国と地方との二重支配の中で、生きていくだけでも大変なのだから、心がすり減ってでもなんとか生きていこうとするルントウは、彼なりに頑張っていたんじゃないかな。
- B：私もそう思う。ルントウの話や様子を読んでいると、苦勞していたんだなあって思ったし、私なら耐えられないって思っちゃったよ。
- C：僕はそうは思わなかったな。結局、人生をあきらめてるってことでしょ。人生楽しいことが何も無いんだったら、楽しくなるように何か考えたり行動したりすればいいのに。何でお金が取られるばかりの仕事の続けるという選択をしたんだろうって思ったよ。人生つまらなさそう。
- A：でもヤンおぼさんも、ルントウも、時代の被害者みたいな感じじゃないの。
- B：私はそうだとってもヤンおぼさんみたいな人にはなりたくないな。人のものを勝手に持っていくのはやりすぎだよ。仕方がなかったんだろうけど…。時代のせいだとしたらそういう世の中って怖いよね。そういう人にもなりたくないし。
- C：やっぱり時代を変える人が必要なんだよ。私というか、魯迅だって、そういう気持ちが大事って言いたかったんじゃないの？最後の道の部分で。
- A：自分一人で何とかするのは難しいかもしれないけれど、同じ道をみんなが通ることで時代をつくることはできるかもしれないよね。私がこの時代に生きていても、みんなで何かを変えていこうなら、ちょっとやれるかもしれないかな。

学習の成果（予想される子供のあらわれ）

私たちは、この作品の人物たちとは異なる苦しさを味わうと思います。でも、考えることをやめたり、やけになったりするのではなく、自分たちがどうなっていきたいかを考えながら、同じ考えをもつ仲間が集まって、協力して生きていけるようにしたいと思いました。